

中澤日菜子著「PTA グランパ！」KADOKAWA 2017年3月25日刊を読む

1. 「みなさん。きっとみなさんは『PTA なんてめんどくさい』『そんな時間ない』と思っていることでしょう。私もそうでした。去年の私がまさにそうでした。あ、申し遅れました、私、昨年度副会長の武曾勤と申します」
2. なにを言いだす気！ 久しぶりに順子はあの懐かしいパニックに襲われる。
総会打ち上げの居酒屋。夏祭りの校庭。全体保護者会の体育館——勤の言動に振り回され続けた忌まわしい過去が、まるで走馬灯のようによみがえる。
結真が「武曾さん、武曾さん」必死に呼びかけながらスーツの裾^{すそ}を引っ張った。だがそんなことで勤の「暴走」が止まるはずもない。
3. 「一年間、一年間PTAの副会長をやってみた正直な感想は『とにかく疲れた』です。この一年、じぶんの時間なぞほぼなかったと言っていい。週に九回、学校に来たこともあります」
4. 雅恵が血走った眼でバッグからハンカチを取り出した。口に突っ込んで黙らせてしまおうという算段に違いない。
「九回」「まじで」「やっぱ無理」「絶対無理」保護者たちがいっせいに囁きあう。
ああだめだ、もうだめだ。順子はこれまた懐かしの無力感に打ちひしがれる。
すこしは変わったと思ったのに。成長したと思っていたのに。これじゃ一年まえとなにも変わらない。一年まえとなにも——。勤が声を張り上げた。
5. 「ですが PTA の仕事にはそれだけの価値があります。活動をとおして得た経験、感動、そして友人。それらは PTA に関わらなければけっして得ることのできなかつたものでしょう。みなさん。確かに PTA の仕事はたいへんです。苦労も多い、金にもならない、そのわりに感謝される場面はすくない損な役回りかもしれません。けれどもみなさん、やらなければわからなかつたこともまた、たくさんありました。足を踏み入れなければ見えない景色もまた、たくさんあるのです。見てみませんか。やってみませんか。きっと一年後『やってよかつた』と思えるはずですよ。今日の、私のように」
6. そう言って勤は、集まったひとびとをゆっくりと眺めわたした。
春の風が窓を揺らす。
地面に散り落ちた桜の花びらが、風に乗って高く舞い上がってゆく。
結真が、ひゅう、ごくちいさくくちぶえを吹いた。
なかば無意識のうちに順子は勤の背に拍手を贈る。
「最後まで、前例のないことばかり……」雅恵がそっとつぶやき、そしてちいさく、笑んだ。

[コメント]

NHK BS で、5月21日(日)まで10週にわたって放映された「PTA グランパ」(毎週日曜日 22:00～23:00)の原作。

作家である中澤日菜子さんのPTA活動を踏まえての作品なので、読みごたえ十分。山下先生の裁判の結果がどうなるのか、第2巻の刊行が待ち遠しい。教育関係の皆様は、是非ご一読を。

— 2017年5月21日(日)林明夫—